

2025 年度 名古屋造形大学

【前期】一般選抜
『国語』問題用紙

【注 意 事 項】

※ 解答はすべて解答用紙の解答欄に記入しなさい。

一 次の文章を読んで、後の設問（問一～問七）に答えなさい。解答はすべて解答欄に記入しなさい。

この世は模倣されたモノたちで満ち溢^{あふ}れている。Ⅰ、ジャーナリズムの進歩が模倣の速度をキョウウイ⁽¹⁾的なまでに引き上げている。あらゆることが一気に全世界に広まり、次々とブームが作られる。^Aこれからの世界を生きる人間は、このブームの中に隠れている本質を、いつも注意深く見つけ出す努力をしていないと、自分の立ち位置を失ってしまうことになるだろう。

何かの事件が起きると、ジャーナリズムはゲームやアニメや漫画に原因を見つけようとヤツキ⁽²⁾になる。テレビのワイドショーではコメンテーターと称する人たちが、本質とはかけ離れた議論を繰り返している。何の発見もない言葉だけが無意味に再生産され、サイン⁽³⁾なく展開されていく。その言葉がまた、新たな模倣を生むだけなのである。

見終わって、何の発見もない映画はダサク⁽⁴⁾だ。エンタテインメントとしてどれほど優れていても、どこかに「なるほど」と思わせる新たな価値観や、新しい視点が盛り込まれていなければ、その映画の価値は低い。

同じように、社会評論を生業^{なりわい}としている人間は、常に新たな言葉を発見しなくてはならない。「こんな悲惨な事件を起こす犯人は人間じゃないですね」とか、「子供を放り出して遊びに行く母親なんて許せませんね」とか、Ⅱ「地方はビヘイ⁽⁵⁾しているというのに、国はなぜ何もしようとしないのでかね」とか、そんな現状を追認しただけの言葉をいくら並べても、問題は何ひとつ解決しない。

未成年の凶悪事件が起きると、母親はどのような育て方をしたのか、という議論になるようだ。母親の手記を読んだり、家庭環境を調べたりして、その病理を探そうとしても、あまり有効な手段ではないと、僕は思う。

原因をすべて個人に帰しても、あるいはすべてを社会に帰しても、それは間違いだろう。そんな当たり前の分析や、現状を追認するだけの報道ならば、それは害の方が勝ると僕は思う。報道がまた新たな模倣を加速させ、事件の引き金にならないと、誰が断言できるだろう。

現実には報道をストップさせることなどできないのだから、もっと有効な言葉を使って、この社会を分析していくしか、評論家やジャーナリズムの意義はないのではないか。

現代日本ほど言葉が軽んじられた時代はないだろう。若者たちが次々と新しい言葉を発明しては使い捨てにしていくのと同じように、評論家は何ひとつ有効な言葉を見つけ出せず、テレビは模倣された言葉が無批判に垂れ流していくばかりだ。

Ⅲ、「KY（空気が読めない）」といった若者言葉が突然脚光を浴び、いいオトナがそれをまねて使う。「KY」という略語に言葉としての温かみや本質はほとんどない。Ⅳ、それでもまだ若者たちが仲間内で使っているうちはわずかに残っていたはずの言葉の体温やある種の有効性は、世間に流布したとたんに失われ、流行遅れの冷たい言葉に成り下がってしまう。

こんな若者言葉を面白がって報道したり、模倣したりしている場合ではないのである。ある現実を言い当てるときに、表現に豊かな内実を持たせて、それを社会に再び転化するような力を持つ「言葉」を生み出すことこそが本来、文化的な仕事なのだ。

こんなふうに言葉が有効性を失いつつある現状は、ネット社会が招いた部分もあると思う。言葉^Dを失ったジャーナリズムが無意味な言葉を再生産しているように、ネットはさらに模倣された言葉を激しく流通させる。

映画評論で言えば、映画を作った当の監督が驚くような、「Ⅴ、オレが作った映画にはこんな意味があつたのか」と、作者自身をハッと目覚めさせ、作者の無意識をも再認識させるような評論にはめったにお目にかかれない。それが今、できているのはスタジオジブリの鈴木敏夫プロデューサーぐらいだろう。

^Eだが、今必要とされているのは、映画評論などではなく、この社会を、このろくでもない社会全体を言い当てる鋭い論評なのだ。僕らには言葉が必要だ。有効な言葉が必要なのである。

問一 傍線部(1)「キョウイ」(2)「ヤッキ」(3)「サイゲン」(4)「ダサク」(5)「ヒヘイ」を漢字に直しなさい。

問二 空欄

I

V

 に入る最適な語を次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。(番号は重複できない。)

1. あるいは
2. しかし
3. somewhere
4. なるほど
5. そして

問三 傍線部A「次々とブームが作られる」とあるが、具体的にはどういうことを言っているのか。次から最適なものを選び、番号で答えなさい。

1. 発達した情報伝達手段により報道されることで模倣が次々と引き起こされ、それが流行になってしまふということ
2. 報道されたことをきっかけにして特定の人たちが深く興味を抱くようになり、自然に愛好者の輪がひろがるということ
3. 誰かのまねをしているうちに本格的で独創的なものができあがり、それが多くの人に評価されるようになるということ
4. 情報があつという間に世界中に広まるので、今まで誰も知らなかったようなことがいつの間にか常識となつてしまふこと
5. テレビ局や新聞社の人たちが愛好しているものが一般社会に受け入れられ、多くの人たちも愛好するようになるということ

問四

傍線部B「何の発見もない」とあるが、どういう「発見」が必要だと筆者は言っているか。文中よりあてはまる箇所を十三字(句読点を含む)で抜き出して記しなさい。

問五

傍線部C「仲間内で使っているうちはわずかに残っていたはずの言葉の体温やある種の有効性は、世間に流布したとたんに失われ、流行遅れの冷たい言葉に成り下がってしまう」とあるが、それはどういうことを言っているのか。その説明として最適なものを次から選び、番号で答えなさい。

1. もともと仲間のことを心配したり思いやったりして、優しい気持ちで発した言葉が、人をけなす言葉としてしか使われなくなるということ
2. 仲間同士のつながりの強さを感じたり、仲間であることの確認ができたりしていた言葉が、表面的な意味でしか使われなくなるということ
3. 仲間だけにわかる言葉として秘密のうちに使っていた言葉も、誰にでもその意味がわかるようになると、使う意味がなくなってしまうということ
4. 若者が使っているからこそ、おしやれで流行の先端に行く言葉だと言えるのに、年配の人までが使うようになると、普通の言葉になってしまうということ
5. 仲間同士で使っているだけならば、否定的な意味で使っても大した問題にはならなかったのに、広く使われるようになると、社会問題を引き起こすということ

問六

傍線部D「言葉を失ったジャーナリズム」とはどのようなジャーナリズムか。左の文の空欄を、本文中の指定された字数の語句を抜き出して補うかたちで解答を完成させなさい。

現代社会にまん延しているブームの中に（七字）を、（五字）のある表現で報道し、世の中にもう一度（二字）するといふことができなくなっているジャーナリズムのこと。

問七

傍線部E「僕らには言葉が必要だ。有効な言葉が必要なのである」とあるが、次の例のうち、筆者が言う「有効な言葉」に相当するものとして最適なものを選び、番号で答えなさい。

1. 若者にもわかりやすいように、専門家が難しい内容を平易な表現で説明してくれる言葉
2. 問題の責任を誰かに押し付けるのではなく、自分自身の課題として受け止めさせてくれる言葉
3. 良識あるジャーナリズムによって、問題を抱えて生きている現代の若者の気持ちを代弁された言葉
4. 今起きている社会問題を新しい視点から分析し、今までとは違う理解のしかたをさせてくれる言葉
5. さまざまな社会問題をどうやったら防げるかについて、専門的な分析をした上で解説してくれる言葉

二 次の文章を読んで、後の設問（問一～問七）に答えなさい。解答はすべて解答欄に記入しなさい。

二二〇点にも及ぶグリコのおもちゃのコレクションが展示されているのだから一時間くらいは平気で過ごせるはずだし、エールフランスのスターライナーやマツダのオート三輪のような乗り物、ソニーの初期のトランジスタラジオの愛らしいミニチュアの細部について語りたいことも山ほどあるはずなのに、そういう欲望がまったく湧いてこない。モノの世界に近づく余裕が与えられないのである。絵描きとしての自分ではなく、絵にとつてなにか大切なのかを絵のために考え抜いた画家の、全体として筋の通った作品群に、それほどにも励まされていたらしい。

グリコのおもちゃを蒐集^{しゅうしゅう}していたのは、画家の須田国太郎である。『須田国太郎の芸術——三つのまなざし』と銘打たれた巡回展の会場とくに心を奪われたのは、一九四四年制作の《黄豹》だった。当時京都市動物園にいた二頭のつがいのうちのいずれかを描いたものだという。戦局はすでに厳しく、物資の不足からもう満足に餌を与えられない状況になっていた。この絵が完成した翌月、国から命令が出て雄は処分され、雌は香川県の動物園に移されたが、後に脱走したため殺されている。展覧会の図録は、「餌もろくに与えてもらえず痩せた体軀⁽¹⁾でかろうじて立ち上がり、悲しく地面に頭を垂れる猛獣。だが、その目は鋭く光っており、生きようとする凜とした野生の誇りと張りつめた空気が画面に漂⁽²⁾っている」と説いている。状況^Aを考えればそのとおりなのだろう。

しかし私は、野生の誇りや悲しみといった動物の内面とはべつの、身体を前に運ぼうとする動きを消さず、しかもそこに静止している身体そのものが有する思考回路と、そこから目を逸らさなかった画家^Bの覚悟のほうをよりつよく感じる。正面を見るためにについている肉食動物の眼に追い詰められた草食動物の警戒心をも宿して、なお獲物を狙うような眼光を放っているこの豹の四肢は、動きの途上にある。豹は左右の四肢を、片側の前後を揃えて前に運ぶ。画面奥の左の脚の毛に斑点が見えないのも、動きを孕んだ証⁽³⁾に思われる。

^C 同質の空気が一九三四年に描かれた《牛》にもある。はじめのうち、背景の明るい山肌に視線を奪われて、手前の暗がりや牛であることに私

は気づかなかつた。暗く沈んでいるこの牛の、牛歩ではなく一瞬で遠くへ移動しそうな氣の塊と動きの封印が、背後の景色を揺さぶっている。⁽⁴⁾似た感覚が、能楽師たちのしぐさをつかみとったみごとにクロッキーからも伝わってきた。静のなかの動、動のなかの静を捉えた可能性の表出に、簡便な言葉をあてがわれない倫理と抑制。一連の絵巻となった線描はどれもひとりの能楽師の静止画像を時間の前後に分散させつつ動きを殺したもので、画面の緊張感はいずれ瞬間の連続のなかで一度きりしかあらわれない停止の磁場から生まれている。『野宮』を演じる能楽師たちの丹田^Eにつぎの一步を溜め込んだ静止の力は、『海亀』『犬』『歩む鷺』『鶴』『動物園』の水鳥や『樹下』のヤマアラシにも分有されている。風景と動物のあいだを、能の挙措^Fが結んでいるのだ。

京都三高在学中に独学で絵をはじめた須田国太郎は、一九一三年、二十二歳で京都帝大に入学して美学と美術史を学び、大学院で「絵画の理論と技巧」の研究に打ち込んだ。いつときデッサンを習いはしたものの、あとはすべて独学である。一九一九年に渡欧し、マドリッドに居を構えてプラド美術館に通いつめ、グレコやゴヤの模写に励み、欧州各地を旅して写生と研究を重ねたことが後年の活動の下支えとなっている。理論と実作の融合は容易なことではない。学識はときに自由な創作を妨げ、基礎と応用力を欠いた小手先の仕事は、束の間かがやくことはあつてもやがて底の浅さを露呈する。

須田国太郎は終生独立したアトリエと呼べるような空間を持たず、一九三九年に借りた南禅寺の家では、息子と共有していた四畳半で背広^Gを着てネクタイを締め、正座を崩さずに、描かれつつある作品と対峙^Hしていたという。まやかしの仕事は当人以上にそれを享受する側の身体を蝕^Iむ。手を抜いた作品は人の心も自分の心も打たない。大事なところを間引いていることが見破られないよう表面だけうまく整えた仕事などもう観たくないという想いを、彼の仕事は最後まで裏切らなかつた。

(注) 「丹田」——へその下あたりを指し「臍下丹田」とも言われる。氣力が溜まるところとされる。

(堀江敏幸 「黄色い豹の四肢」より)

問一 傍線部(1)「体軀」(2)「漂って」(3)「証」(4)「塊」(5)「蝕む」の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問二 傍線部Aで筆者は「状況を考えればそのとおりなのだろう」と言っているが、筆者はこの図録の解説に対してどのような思いを持っているか。次から最適なものを選び、番号で答えなさい。

1. 内容に全面的に賛同しており、補足説明をしようと思っている。
2. 内容はおおむね正しいが、それとは別の見方ができると思っている。
3. 内容の一部に間違いはあるものの、おおむね正しいのでこれでいいと思っている。
4. 内容のほとんどが間違っており、まちがっている箇所を正そうと思っている。
5. 内容は全面的に間違っており、自分独自の見方を述べようと思っている。

問三 傍線部B「画家の覚悟」について、それを端的に表現している箇所を傍線部Bより前の部分から解答欄の末尾に続く形(句読点を含む十五字以内)で抜き出し、記しなさい。

問四 傍線部C「同質の空気」とはどのような雰囲気を言っているか。文中の語句を用いて説明しなさい。(末尾は「〽️雰囲気」とすること。)

問五

傍線部D「瞬間の連続のなかで一度きりしかあらわれない停止」および傍線部E「つぎの一步を溜め込んだ静止」のどちらともほぼ同じことを表現している箇所を六字で抜き出して記しなさい。

問六

傍線部F「举措」H「対峙」の語意として最適なものをそれぞれ後から選び、番号で答えなさい。

F「举措」

- | |
|---------|
| 1. あらすじ |
| 2. 振る舞い |
| 3. 扱い方 |
| 4. 捉え方 |
| 5. テーマ |

H「対峙」

- | |
|-----------|
| 1. 戦うこと |
| 2. 関わること |
| 3. 取り組むこと |
| 4. 向き合うこと |
| 5. 張り合うこと |

問七

傍線部G「背広を着てネクタイを締め、正座を崩さずに」とあるが、これは須田国太郎の制作に対するどのような姿勢（気構え）の表れと考えられるか。文中の語句を用いて二十五字以上三十五字以内で説明しなさい。（解答欄末尾の「く姿勢」に続くように記すこと。）

三 次の設問（問一・問二）に答えなさい。解答はすべて解答欄に記入しなさい。

問一 次の(1)～(3)の各グループにおいて、他の三つと異なる性質のものを一つ選び、番号で答えなさい。ただし、()内に記されたことにつ

いて考えること。

(1) (の)

1. 彼女は花子さんの友達です。
2. 花子さんは彼女の友達です。
3. 彼女は友達の花子さんです。
4. 友達の彼女は花子さんです。

(2) (た)

1. 丸みを帯びた石を拾う。
2. 赤い服を着た人が立っている。
3. 玄関から出てきた人にぶつかる。
4. しめつたタオルで顔を拭くのはいやだ。

(3) (修飾・被修飾の関係)

1. 彼は静かに話す。
2. 勝利を高らかに宣言する。
3. 人生は楽しく過ごしたい。
4. この板を丸く切ってほしい。

問二 平成十九年の文化審議会の答申で、日本語の敬語は従来の3種類から5種類に分類するということとなった。すなわち、従来の「尊敬語」

「謙譲語」「丁寧語」に加えて「丁寧語（謙譲語Ⅱ）」（※以降、丁寧語とのみ表記する）と「美化語」という新しい分類が提示された。

「丁寧語」とは、従来「謙譲語」に分類された用法のうち、自分の行為・動作をへりくだることで、聞き手に対して丁寧な表現をする用法であり、「美化語」とは、従来「尊敬語」と分類された用法のうち、上品な言葉遣いによって聞き手への敬意を表す用法である。

どちらも、従来「動作の仕手」あるいは「動作の受け手」に対する敬意とされていた表現が、そのどちらでもなく聞き手への配慮として使用されている状況を追認したものと考えられる。

以上を踏まえて、次の問いに答えなさい。なお、解答はすべて解答欄に記入しなさい。

問・ 次の会話は部長が課長に品物の納期について話しているという内容である。会話中に登場する「課長」は「部長」の、「グループ長」は「課長」の、それぞれ部下にあたる。

この会話中で、傍線部に「丁重語」・「美化語」が含まれているものをそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

部長「課長、探していたんだよ。どこにいたんだい。」

課長「すみません。ちよっとお手洗いにいっておりました。」⁽¹⁾

部長「NZU工業さんから注文があつた部品は明日が納期だったね。」

課長「はい、明日の午前中です。」⁽²⁾

部長「急ぎの注文でかなり時間的に厳しかったけど、納期は守れそうかね。」

課長「部長のおっしゃる通り、非常に厳しくて、ギリギリになりそうです。」

部長「とてもご心配の様子で確認の電話があつたんだ。君の方から一度連絡を差し上げてくれるかね。」⁽³⁾⁽⁴⁾

課長「え？ 私からですか。それよりも、現場のグループ長から進捗状況を報告させるほうが状況に応じて対応できると思いますが。」

部長「うーん・・・そうかね。じゃ、それでいいよ。」

課長「では、グループ長に申し伝えておきます。」⁽⁵⁾

部長「よろしく頼むよ。」

四

次のア～オの詩（冒頭部分のみを記した）の作者を後の1～5から選び、番号で答えなさい。（番号は重複できない。）解答はすべて解答欄に記入しなさい。

ア 『落葉松』

からまつ
の林を過ぎて、
からまつをしみじみと見き。
からまつはさびしかりけり。
たびゆくはさびしかりけり。

イ 『道程』

どこかに通じてる大道を僕は歩いてゐるのぢやない
僕の前に道はない
僕の後ろに道は出来る

ウ 『汚れっちまつた悲しみに…』

汚れっちまつた悲しみに
今日も小雪の降りかかる

エ 『夕焼け』

いつものことだが

電車は満員だった。

そして

いつものことだが

若者と娘が腰をおろし

としよりが立っていた。

オ 『生きる』

生きているということ

いま生きているということ

それはのどがかわくということ

木もれ陽がまぶしいということ

1. 谷川俊太郎

2. 中原中也

3. 北原白秋

4. 高村光太郎

5. 吉野弘

【前期】一般選抜 『国語』 答案

(44) 一

問一 (10) 2×5	問二 (10) 2×5	問三 (4)	問四 (5)	問五 (5)	問六 (5)	問七 (5)
(1) 驚異	I 5	1	新 た な 価 値 観 や 、 新 し い 視 点	2	2	4
(2) 躍起	II 1					
(3) 際限	III 3					
(4) 駄作	IV 2					
(5) 疲弊	V 4					

(36) 二

問一 (10) 2×5	問二 (4)	問三 (4)	問四 (5)	問五 (4)	問六 (4) 2×2	問七 (5)
(1) たいく	2	絵 に と っ て な に が 大 切 な の か	静止している身体を描いていながら、 それが動きの途上にあると感じさせる雰囲気	動 の な か の 静	F 2 H 4	創 ろ う と す る ま や か し の 仕 事 で は な く 、 作 品 を ²⁵ 手
(2) ただよって		を追求する覚悟				姿勢
(3) あかし						
(4) かたまり						
(5) むしばむ						

(10) 三

問一 (6) 2×3	問二 (4) 2×2
(1) 3	丁重語
(2)	5
(3)	美化語
4	1

(10) 四

ア	イ	ウ	エ	オ
3	4	2	5	1